



泣きながら泥だらけの服を着替える、ほほ笑ましい光景

泥だらけになった家族との思い出 今年も棚田オーナーが泉谷で米作り

稲作体験を通じて都市部との交流を図る「泉谷棚田オーナー制度」が今年も始まりました。5月26日に田植えが行われ、10組28人が気持ちのいい汗を流しました。家族で参加した中岡紀彦さん＝松山市＝は「実家が五十崎で、子どもの頃にしていた稲作を娘にも経験させてあげたかった。改めて見ると棚田の景色は素晴らしい。娘も楽しんでいて、参加してよかった」と話しました。

御祓地域の活動拠点でおもてなし 「みそぎの里」がリニューアルオープン

旧御祓小学校跡地を活用した「みそぎの里」が5月12日、店内を一新して開店しました。運営は御祓自治会女性部で、御祓地区でしか味わえない料理を提供しようと「季節の定食」をメニューに加えました。運営者の一人、地域おこし協力隊の水谷円香さんは「定食がおいしいと評判。御祓の米や新鮮な野菜をぜひ味わってほしい」と呼び掛けました。営業日は毎月第2・第4日曜日です。



「定番メニューのうどんもおいしくなってるよ」



1～3年生が同じグループ。他学年との交流も魅力

地域社会で役立つ能力を向上—— 小田高校生、全員参加の「オダカン」を開催

地域社会を担う人材育成に取り組む小田高校が6月5日、「小田高校生全校会議・Odako Conference（オダカン）」を開きました。外部講師の講演を聞いた後、全校生徒77人が9つの班に分かれて、「小田高校をよりよくするプラン」について協議。各班が「ICTを活用した他校との交流」「小田の石で作った絵の具で、校舎の一部に絵を描く」など、課題解決に向けた提案をしました。

子どもたちの元気が内子町の元気 20回目の「子どもフェスティバル」

「内子町子どもフェスティバル」（同実行委員会主催）が5月18日、内子運動公園総合グラウンドで開かれました。20団体が協力し、お化け屋敷や移動動物園、白バイ・パトカーの乗車体験などの楽しい企画で、約900人の子どもたちを迎えました。笑顔いっぱい楽しんでいた本田夏鈴ちゃん(5)は、「顔にハートやサクランボの絵を描いてもらった。お面も作った」と満足そうに話しました。



子ども用防火服を着て消防士になりきる子どもたち



出演者みんなで内子座初公演の記念撮影

全国の社会人落語家が内子座に集う 「内子座落語まつり」を初開催

「内子座落語まつり」（同実行委員会主催、城戸英実行委員長）が6月8日、内子座で開かれました。全国から集まった社会人落語家の高座を見ようと、約240人が来場。自らも落語を披露した城戸実行委員長は「社会人だけど本格的。生の三味線演奏もあり、落語の醍醐味を味わってもらえたと思う。出演者も来場者も楽しんでいた。来年もまた開催したい」と相好を崩しました。

練習で磨いた技と音色と歌声と—— 文化協会内子・五十崎支部が「芸能発表会」

内子町文化協会の芸能発表会は、内子支部が5月19日に内子座で、五十崎支部が6月2日に共生館で開かれました。延べ28団体・約300人が出演。日本舞踊や剣詩舞、三味線や和太鼓の演奏など、日ごろの練習の成果を堂々と披露し、観客を魅了していました。「逢いたい島」を踊った篠浦小雪さん(10)は「妹と合奏するのが難しかったけれど、うまく踊れてよかった」と声を弾ませました。



内子琴栄会の華やかな演奏で幕を開けた内子支部



玄関の立て付けを直す組合員

思いは「内子町の子どもたちのために」 長年続く建設業組合のボランティア活動

プロの技術で町に貢献しようと「内子町建設業組合ボランティア事業」（西瀨菊寿組合長）が6月8日、内子町内の小・中学校などで行われました。今年も組合員35人が参加し、ドアや備品の修繕をしました。小田小学校の山田智子校長は「玄関やトイレのドアを直してもらった。毎日使う場所なので、安心して使えるようになった。毎日使う場所なので、安心して使えるようになった。毎日使う場所なので、安心して使えるようになった。ありがとうございました」と感謝しました。

紙と本から見つける、新しい豊かさ 初開催の「内子天神紙の市」

「内子天神紙の市」が5月25・26の両日、天神産紙工場で開かれました。和紙や紙の魅力を伝えたいと、有志数人が企画。活版印刷や紙版画などの8つの体験コーナーのほか、持ち寄られた包装紙などを他の参加者が自由に持ち帰れる「天神紙神社」を設置しました。発起人の渡邊真弓さんは「紙や本好きの人たちといい時間を過ごせた。また開催したい」と笑顔で話しました。



親子で消しゴムハンコの楽しさを体験